

○指導計画

時間	段階	主な学習内容	ねらい
1	オリエンテーション	○授業の流れや授業における約束事の確認 ○ハンドボールの特性や学習意義についての理解 ○チーム分け、チームカードの作成 ○身体ほぐし(片足ジャンケン、膝タッチ、ボール取り、じゃんけん突破ゲーム、目指せ名ドリブラー)	・学習の意義や目的、学習方法を理解する。 ・自分の技能レベルを知ることができる。 ・練習や運動をする上でのルールや健康・安全について理解することができる。 ・基本的な体の使い方を理解し、仲間と作戦を立てて協力することができる。
2	学習Ⅰ	○シュートドリル(センター) ○速攻ゲーム1 ○速攻ゲーム2	・動きの中でボールを操作し、狙うことができる。 ・仲間と連携してゴール前での攻防を展開できる。 ・ボールを相手に奪われないようにパスやドリブルなどでキープすることができる。 ・練習の際に仲間にアドバイスをしたり、課題解決に向けて仲間に助言したりすることができる。
3		○陣取りドリブル ○エリア限定ゲーム(2分割) ○エリア限定ゲーム(3分割)	
4	学習Ⅱ	○シュートドリル(サイド) ○タッチダウンゲーム ○3対3のDF固定ゲーム(条件付き)	・周囲を見ながらプレイし、ボールを受けてからパスを出すまでの判断をはやくする。 ・空いたスペース(空間)を見つけて走り込んだり、仲間の特徴を生かして、攻防したりすることができる。 ・分析シートから自分達の課題を発見し、次のゲームに生かすことができる。 ・練習の際に仲間にアドバイスをしたり、課題解決に向けて仲間に助言したりすることができる。 ・今までに学習した内容を自分達の課題に応じて適用したり、応用したりすることができる。 ・学習した安全上の留意点を他の練習場面や試合場面に当てはめることができる。
5		○スキルテスト ○DF増やしゲーム	
6		○シュートドリル ○速攻ゲーム3 ○DF増やしゲーム	
7		○チーム練習 ○抜けゲーム ○バランスボールゲーム	
8	学習Ⅲ	○リーグ戦	・相手チームの攻防に応じた作戦をチームで立て、ゲームに生かすことができる。



城南中ハンドボールの

研究授業についての成果と課題

- ・工夫したゲームの「DF増やしゲーム」では、一つのゲームの中で攻撃3人に対して守備が2人から3人、4人と増えていくところに工夫がみられた。2対3攻撃有利の時には縦への動きが多く、空間に走り込みシュートを打つことができていた。3対3では、パウンスパスなどの工夫をすることで何とかシュートまで持っていくことができた。4対3守備有利の時には、分析シートを使いサイドからのプレーをしようと作戦を立てていたが、相手がいるとなかなか成功しなかった。女子だけが進入できるエリアを決めるなどして運動の苦手な生徒や女子も生き生きと活動していた。
- ・全体的には、分析シートがよく考えられたものであったため、自分の動きだけでなくチーム全員の動きがよくわかりチームでの話し合いを活発に進めるために有効であった。シートのおかげで、作戦を工夫したり改善したりしやすかったと思う。普段から対話的な授業を展開している様子がわかる、会話の多い授業となっていた。最後に各班で考えた作戦や実践後の感想発表など共有できると更に良かった。今後は運動量を落とさずに対話を増やし、深い学びにつなげていく授業を考えていくことが課題である。